

ほなみ通信

第96号

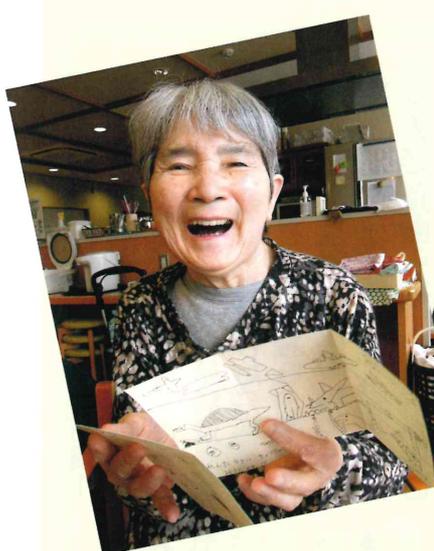
2022年6月15日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

はじける笑顔に元気をもらって



みふゆ
美冬です



新型コロナウイルス感染症の施設内療養を振り返って

特別養護老人ホーム穂波の里 施設長 古藤 悦子

2月に蔓延した新型コロナウイルス感染症では多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけしました。

法人内でも職員間交流や食事休憩、県外への往来を制限したり職員家族の体調報告等もお願ひしてきました。介護職は夏場でもマスク、ゴーグル着用で入浴介助を行い、相談職は訪問前に利用者の体調や県外の往来を確認し、全職員がコロナウイルスを持ち込まないよう気をつけておりました。

そのような中、2月4日シヨートを1泊利用し退所された方が陽性になりましたとの報告がありました。

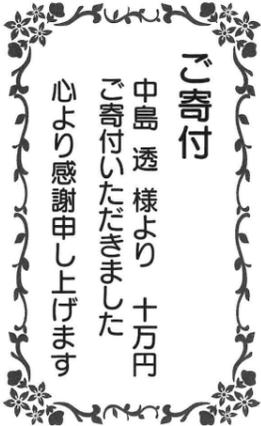
保健所に確認しましたが「病院から発生届が出ておらず対応できません」との事でシヨート管理者・職員と共に利用者家族・各関係機関に連絡し、居室隔離やゾーニング(※)等を手探りで行いました。数日後、同室者と食事席の近い方が2名陽性となり、シヨート職員は濃厚接触者として出勤前の抗原検査と防護服着用で勤務してもらいました。

※用途別に空間を分ける

コロナウイルスの感染対応をしていく必要があると思います。

反面、介護度が重く多床室中心の施設は感染拡大のリスクにもなり、特効薬の内服や点滴が困難な方も多いのが施設内療養の現状でした。3日以上の高熱や血中酸素濃度低下、ご家族の医療希望の入院判断は、高齢の利用者・入居者にとっては厳しいと感じましたし、施設内感染から陽性となった職員や、その家族が安心して過ごせる宿泊施設を医療同様に介護にも整備してほしいと感じました。そして、事業所の減収補填についても検討していただきたく、関係機関と共に県に要望書を提出し、県のコロナ感染症研修にも実践報告させていただきました。

未曾有のコロナ感染下であっても利用者・入所者にとって、あたりまえの日常生活が安心して送れるよう、職員と共に今後も環境づくりに努めていきたいと思っております。



中島透様より 十万円
ご寄付いただきました
心より感謝申し上げます

2月12日には隣フロアの特養1階入居者が発熱し抗原検査で陽性、他入居者に抗原検査を行うと4名が陽性となり、物品調達や業者連絡等に追われました。

特養入居者は80名おり、要介護度も高く半数以上が90代の方です。かかりつけ病院に入院を打診しましたが断られ、保健所から医療調整本部の医師に相談。医師からは「家族が医療(集中治療)を希望なのか確認してほしい。希望なら家族がいつでも対応できるようにしてほしい。」と言われご家族に意向を確認しました。その方は2日後に村上市内の病院に1時間かけて福祉タクシーで行き入院しました。軽度でも38℃以上の発熱が数日続き、食事を摂るのが難しい方や陽性と認識できず数分おきに部屋から出てくる方もおり、対応は困難を極めました。また、特効薬であるラゲブリオはカプセルの大きさが2cmもあり、朝・夕4カプセルを5日間内服することは、ミキサー食摂取の方には窒息の危険性が高く内服できませんでした。職員からも「抗原検査で陽性になりました」「この痛みがあり熱が出ました」との報告が毎日あり「自分も感染しているかもしれない」と不安に苛まれたことが多かったです。

陽性職員に貸すホテルはなく、市や県にも相談しましたが「情報があればこちらにも教えてほしい」と回答され、軽症者用ホテルは「県が窓口なので伝えられません」と教えて頂けませんでした。

「他の家族にうつすと悪いから自宅に帰れない」と自宅に帰ることを頑なに拒んだ職員には幼い子供と妊娠中の妻がおり、実家の納屋で過ごしたそうです。自宅療養した職員は他の家族をホテル等に避難させ、誰もいないなかで体調悪化し療養期間中は受診も極力控えるよう言われたそうです。また無症状で陽性となった職員は「大変な時に陽性になってすみません」と泣きながら謝罪し、入居者や他職員をとて心配していました。

結果として入居者17名、介護職員10名が陽性となり、2月28日に入居者全員の療養期間を終え、入院された方も無事に退院してしまいましたが、環境変化により食事摂取困難となった方が、ご家族との話し合いで施設での看取りとなりました。

施設内療養を振り返った時、感染対応時には保健所や新潟市や県のご担当者からも、たくさんのご指導や温かい言葉を多くいただきました。関係者が一丸となって

令和3年度 苦情処理 第三者委員会報告

日時 令和4年3月2日(水)

13時30分～14時30分

場所 道場山穂波の里4階

出席 山田 豊(評議委員)

森田法子(評議委員)

皆川直史(道場山穂波の里 施設長)

收集事業事務局1件)

今年度の苦情総件数は2件でした。(包括五十嵐1件、ふれあい収集事業事務局1件)

包括五十嵐では相談者より「看板も目印もなければ分からない」と苦情があり、電話で説明したところ「もう一度探してみる」と電話を切られた。10分後再度電話があり「探しても見つからないから別の包括支援センターに行く」と立腹される。訪問し相談を受けることを伝え自宅に伺った。訪問時にパンフレットを渡し所在地を説明したが「場所は分かったが地図を調べてもヒットしないと困りますよ」とのご指摘をいただいた。もう1件は、民生委員より、担当

している高齢者からふれあい収集事業担当者に対する苦情というところと、包括坂井輪に相談が入り、理事長同席のもと話をうかがった。ふれあい収集事前訪問の際に「男の人が二人来て、ちょっと待って」といったけど、家の中に入ってきた。コロナのこともあるからあまり人を寄せたくない。帰った後も動悸がして眠剤を飲まないと眠れなかった。」と、本人がおっしゃっていた。高齢者福祉の職員として、配慮が不足していると感じた、このご意見。担当職員に確認したところ「あがって説明しましょうか」と聞くところ「どうぞ」と受け入れてもらえたのでそのように対応。しかし相手の受け止め方に対して配慮に欠けていたと反省。その旨を民生委員にお詫びした。

第三者委員からは包括五十嵐は開設したばかりで案内看板もないため、看板の設置をするように提案される。またふれあい収集事業担当者への苦情については、初めの訪問では相手の状況も分からないことが多いため、今後は相手が勧めない限り自宅に上がることは避け、玄関で説明することを提案される。



〔在宅部門〕 注 ()内の増減数は昨年度比

デイサービス	
	穂波の里 (定員30名)
年間延べ利用者数	7,795名 (901名減)
一日平均利用者数	21.5名
	道場山 (定員12名)
年間延べ利用者数	1,944名 (338名増)
一日平均利用者数	5.4名
	たんぼぼ寺尾上 (定員15名)
年間延べ利用者数	1,427名 (290名増)
一日平均利用者数	6.9名

配食サービス	
2022.3利用実数	37名
年間延べ配食数	6,704食
委託業者	4,440食
自主事業	2,264食

ショートステイ	
年間延べ利用人数	9,817人 (111名増)
一日平均利用者数	26.8名

〔ケアハウス〕		
2022.3末	入居者数	40名
	自立	7名
	要支援1	6名
	要支援2	8名
	要介護1	12名
	要介護2	5名
	要介護3	1名
	要介護4	1名

〔グループホーム〕		
2022.3末	要介護1	5名
	要介護2	2名
	要介護3	2名
	計	9名

ヘルパー穂波の里		
2022.3利用実数		54名
年間延べ派遣	件数	延べ時間
介護給付身体介護	209件	1,739時間
総合事業(現行相当)	407件	2,145時間
ヘルパー事業の稼働時間	3,884時間	
ヘルパー事業の廃止件数	15件	

地域包括支援センター坂井輪	
総合相談(延べ件数)	5,912件
権利擁護(延べ件数)	695件
困難事例(ケアマネ支援・延べ件数)	607件
予防ケアプラン(2022.3.31現在)	317件

地域包括支援センター五十嵐	
総合相談(延べ件数)	2,750件
権利擁護(延べ件数)	117件
困難事例(ケアマネ支援・延べ件数)	172件
予防ケアプラン(2022.3.31現在)	337件

地域あんしんサポートセンター		
らくらくショッピング	利用回数	40回
※買い物支援サービス		

居宅介護支援事業(老人介護支援センター穂波の里)	
ケアプラン(2022.3)	172件

居宅介護支援事業(ケアプランセンターたんぼぼ寺尾上)	
ケアプラン(2022.3)	96件

〔道場山穂波の里入居部門〕		
2022.3末	実数	29名
	要介護3	8名
	要介護4	8名
	要介護5	13名

2021年度 穂波の里1年間のまとめ

〔入居部門〕

①平均年齢

2020.3末	88.5歳
2021.3末	88.5歳
2022.3末	89.0歳

②退去された方の状況

2020.3末	16名(入院退去 12名 施設看取り 9名 療養型 1名)
2021.3末	18名(入院退去 10名 施設看取り 8名)
2022.3末	17名(入院退去 12名 施設看取り 5名)

③要介護度(2022年3月現在)

要介護2	1名
要介護3	12名
要介護4	32名
要介護5	29名

平均介護度4.2 (前年度4.16)

④医療状況

入院 34件 (前年度19件)	経管栄養	3名
	胃ろう栄養	0名
	尿道カテーテル	1名

⑤入居申込数、待機者数

年間申込数(2021年度)	53名
2020年3月末現在待機者数	163名
2021年3月末現在待機者数	153名
2022年3月末現在待機者数	169名

⑥待機場所

介護老人保健施設	56名
介護療養型	5名
一般病院	27名
在宅(CH・GH・SS)	75名
その他	6名
待機数合計	169名

※CH ケアハウス、GH グループホーム、SS ショートステイ

⑦リハビリ実施状況

作業リハ	延べ	863名
小集団リハ	延べ	1,951名
個別リハ	延べ	1,072名

⑨入居者の会

世話人会	月1回
グループ会	各月2回(3グループ)

⑧サークル等

書道	延べ	208名
小集団リハビリ体操	延べ	1,951名
太極拳ゆったり体操	延べ	565名

⑩地域との連携
 新型コロナウイルス感染症の長引く影響により、昨年度も残念ながら盆踊り大会やボランティア交流会、家族会総会等は開催できない状況でした。施設入居者や利用者、地域の皆様が安全に交流するためにはどのような方法があるのか、と暗中模索しながらボランティアほなみと共に3カ月毎の意見交換を行い、施設の現状をお伝えしてきました。年明けにはボランティアコーディネーターを長年されていた方の交代があり、新しく2人の方にコーディネーターをお願いし支援時間や内容の見直しを話し合っております。
 また、たんぼぼコーヒーの売り上げ代金より施設運営への助成金として20万円のご寄付をいただきました。この場をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございました。

在宅部門

“2021年度まとめ”と“2022年度方針”

2021年度は、法人事業所内(ショートステイ、特養穂波の里、ケアハウス)で新型コロナウイルス感染症の発症があり、在宅事業がコロナ禍の影響を大きく受けた年度でした。

ヘルパー事業は、2つの事業所を統合したことで派遣時間数が昨年度と比較して約54%増となりましたが、デイサービスセンター穂波の里は延べ利用人数で11%の大幅減となりました。ショートは、新規受け入れが出来ない期間があったものの延べ利用人数で約1%増、デイサービスセンター道場山穂波の里(認知症対応型デイ)は約21%増となりました。配食サービスはデイやヘルパーの利用自粛の影響が約12%の利用増となりました。

コロナ禍で事業運営が大変な中、10月から地域包括支援センターの分割と新規で包括五十嵐の運営委託を受けました。新年度は、2つの生活圏域で在宅高齢者の方々の総合相談に対応し、感染予防に十分留意しながら、安心して在宅サービスや介護予防体操、お茶の間等をご利用いただけるよう努力していきたくと思います。

入居部門

“2021年度まとめ”と“2022年度方針”

新型コロナウイルスの集団感染ではあたりまえの日常生活が送れるありがたさを感じたと話す職員も多く、いざ感染症が起こると入居者の生活を一変させてしまうことになり、風邪やインフルエンザ等で感染症対策をしてきた職員も、新型コロナウイルスの場合は本当に大変だった、との声が多く聞かれました。食事・排泄・入浴等の介護で密接する介護現場では感染拡大は避けられないと感じました。今後感染者数が減少し、ご家族との面会が再開できるよう検討していきたくと思います。

特養待機者数はR4年3月末で172名です。退所者数は17名。看取りは5名で新型コロナウイルス感染症の施設内療養中に看取りをされた方もいました。入院すると長期傾向となり退所される方が多く、入所面接の受け入れをしない事業所もあったことから、入所受け入れ調整が早急にできない状況でした。早期の満床を目指していきたくと思います。



桜咲く
華やぐ気持ち
フロアで春を感じて



さわやかな季節となり中庭や外回りの庭では、ボランティアさんが丹精込めた鮮やかな花が色とりどりに咲き、入居者・利用者も季節感を楽しみながら眺めています



広報委員紹介

今年度の広報委員7名です

- 古藤 (ケアハウス)
- 住川 (シヨートステイ)
- 中林 (グループホーム)
- 板谷 (特養穂波の里)
- 前山 (道場山穂波の里)
- 武田 (事務総務)
- 梁取 (包括坂井輪)

よろしくお願いたします